

各 位

会 社 名 サンコール株式会社
 代表者名 代表取締役社長 山主 千尋
 (コード：5985、東証第一部)
 問合せ先 執行役員 業務・管理部門長 杉村 和俊
 (TEL. 075-881-5280)

平成 29 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異 および営業外費用（為替差損）の計上に関するお知らせ

平成 28 年 5 月 13 日に公表致しました平成 29 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたこと、および営業外費用（為替差損）を連結、個別業績の双方において計上することをお知らせ致します。

1. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値と実績値との差異

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 18,400	百万円 750	百万円 450	百万円 250	7.88
実 績 値 (B)	18,564	1,167	450	209	6.61
増 減 額 (B - A)	164	417	0	△41	
増 減 率 (%)	0.9	55.6	0.0	△16.4	
(参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	18,385	1,194	1,298	805	25.39

2. 差異の理由および営業外費用（為替差損）の計上について

売上高は概ね計画通りの推移ですが、営業利益はメキシコ子会社の量産体制が想定よりもローコストで立ち上がったことと、原価改善が中国子会社とタイ子会社の自動車/電子情報通信の両セグメントで進んだこと等により当初計画を上回りました。

営業外損益では対米ドルで円高が進行し、当第 2 四半期累計期間の個別業績において米ドル建て債権等の為替差損として 4 億 65 百万円を計上しました。これに加えてメキシコなどの自国通貨安となった海外子会社では外貨建て債務の評価替えインパクトが増し、連結業績では 7 億 89 百万円の為替差損を計上することとなりました。この結果、経常利益については営業利益の増分が相殺され計画通りとなり、親会社株主に帰属する四半期純利益は計画を下回りました。

なお、平成 29 年 3 月期通期連結業績予想につきましては、顧客需要動向の下振れ懸念が強く、為替変動も先行き不透明であること等から、現時点では平成 28 年 5 月 13 日に公表した予想数値を据え置くことと致します。今後の業績動向を踏まえて業績見通しが明らかになり、予想の修正が必要となった場合には速やかに開示することと致します。

以 上